

本堂客殿建設進捗状況



本堂裏側位牌堂の入口



本堂内陣裏の位牌壇です



客殿広間

寿楽院本堂客殿建設作業現場

十三仏の事典

一周忌の勢至菩薩

十三仏の中でも、勢至菩薩は余り世間に知られておりませんが、昔から「観音、勢至」といつて阿弥陀如来の前に、左右一対の脇仏としてお祀りされています。観世音菩薩が慈悲の仏さまであるのに対し、勢至菩薩は智慧を施す仏さまだとされています。

勢至菩薩は、そのお名前が示すとおり、大きな智慧の「勢い」で人びとの仏智仏性を開き、遂には覚りに至らします。そこから勢至という名前が生まれたのです。観無量寿経に「智慧の光をもって普く一切を照らし、三途を離



れしめて無上の力を得せしむゆえに大勢至と名づく」とその御誓願を説いています。

三途というのは三途の川と一般にいわれていますが、火途、血途、刀途という地獄、餓鬼、畜生の迷いと苦しみの三つの世界であり、焦熱地獄、血の池地獄、針の山地獄ともいわれています。このような迷いの世界を強い智慧で打ち破り、仏道に入れて覚りに至らしめるというのが勢至菩薩のお力です。

亡き人は、勢至さまの導きで、一挙に悟りへの道を勢いよくあゆみ出すということになります。

私たちも一周忌を迎える頃になりますと、心の整理ができて落ちつき、亡き人への強い思慕と思ひ出と感謝の心をまとめることができるようになっていきます。

それとともに、改めて私たちも勢至さまの導きを得て、修行の心を学び直していくこととなります。